

2025. 12. 27 ジュラシックパークが作りたい！

年中児 S 男。本園の Facebook で何回か紹介させていただいていますが、夏にカブトムシに出会い、そこから生き物への愛がどんどん膨らみ、カエル、バッタ、ザリガニと生き物への関わりを自ら広げながら、その世界を切りひらいてきました。

11 月には毎日カマキリのお世話をし、卵を産んだことに感動し、また寒さで亡くなった時は、切に悲しみ、心から生き物が好きなんだと感じる日々でした。12 月の発表会では、ヘラクレスオオカブトに変身し、保護者の前でなりきりながら飛びまわったり、いきいきとセリフを言い、多様な表現の中で、S 男なりに「好き」を味わっているようにも見えました。

発表会后、家で親と見た映画「ジュラシックパーク」から、恐竜への興味をもち始めます。新たな出会いです。恐竜というよりは、映画に出てくる「ブルー」自体に興味をもっているようでした。「先生、ブルーを印刷してほしい！」と S 男。印刷をして渡すと、ハサミで切り取り、空き箱の厚紙に貼っていきます。そして、それを自立させようと割箸とペットボトルの蓋を取ってくると、テープでつけていきます。割箸 1 本では不安定。「割箸を 2 本にしてみたら？」と周囲の子のアイデアをもらいながら自ら作っていきます。試行錯誤の上、ブルーは自立しました。S 男はとっても嬉しそう。その自立したブルーを片手に恐竜図鑑を持ち始めます。他の恐竜も気になり始めるのです。

次の日、「つぎはジュラシックパークを作りたい！」と S 男。教師と一緒にジュラシックパークの門を作ると、その門を通ることができる恐竜を作りたいと少し小さめの恐竜を作っていきます。しかし恐竜の体が小さいため割りばし 2 本はつけられず、割箸 1 本では不安定。いろいろ悩んでいる S 男に保育者は、「そのペットボトルの蓋に粘土を入れてみたら？」と提案をしてみました。S 男はジオラマの石としてつかっていた粘土を蓋に入れてみます。すると、さっきより安定。「もっといれたらどうかな？」とさらに S 男はペットボトルの蓋に粘土をびっちり入れます。するとものすごく安定します。安定には重みが大切だと気付く S 男。そこから、自立する恐竜はどんどん増えていきます。

次の日、ジュラシックパークができてきたところから、S 男のイメージがさらに膨らんでいきます。「恐竜が檻に捕まっているところを作りたい！」と S 男。割りばしで檻を作っていきます。ジュラシックパークがジオラマのようにどんどんリアルになっていきます。「オーウェン（登場人物）をバイクに乗せたいな！」「モササウルスは海にいるよねー、海があるといいな！」などさらにやりたいがあふれてくる S 男。リアルにこだわる S 男。

保育者の手伝いを借りながら、「ここが自分でできる。ここは手伝って！」と意思表示をします。その姿に保育者はびっくり！以前は「全部作って！」だった S 男。しかし、ヘラクレスオオカブトの部屋を自分なりに描き、折り紙で自分で作ることができるなど、成功体験を積み重ねてきた S 男。一つ一つの自信をもとに「自分でなんとかしよう！ぼくならできる！」という思い・自立心がここで発揮されているように思えます。その成長は昨年度年少担任していた保育者たちも驚いていました。

年中組では、6 月にこれも同じ「ジュラシックパーク」「ブルー」から興味をもった R 子が、ペープサート遊びをして、そこから学年全体で恐竜ブームが繰り広げられました。でもその時はまったく反応しなかった S 男。一人一人の興味のもつタイミングは本当にいろいろです。そして興味の持ち方、遊び方も違う。だからこそ面白い！年明けにまた再開されるかはわかりませんが、一人一人のタイミングで、また恐竜ブームがやってくるかもしれません。また違った「好きの重なり」が生まれるかもしれない。いろいろな視点で、その子なりの遊び方で恐

竜を楽しむ。好きに厚み生まれる。そのような期待感もたせてくれたS男の姿でした。

